

音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース
1年次 受講科目一覧

文化・教養専門課程（文化・教養分野）

1 単位時間

45分

授業科目		年間授業 時間数	週授業 時間数	単位数
実習	分野別実習 I (前期)	34	2	1
実習	分野別実習 I (後期)	34	2	1
講義	業界知識 I	72	2	4
講義	一般教養 I	68	2	4
講義	音楽史 I	68	2	4
講義	舞台知識 I	68	2	4
講義	P C 知識 I	68	2	4
講義	コンサートスタッフ知識 I	68	2	4
実習	サウンドアナライズ I	68	2	2
実習	DAW&Theory I	68	2	2
実習	Pro Tools 基礎 I	68	2	2
実習	Pro Tools 応用 I	68	2	2
演習	レコーディング基礎 I	68	2	4
演習	レコーディング応用 I	68	2	4
合計		888	26	42

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	オンデマンド I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	業界知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	36回(72単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目		該当	<input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要	音楽業界に関わる様々な業種について理解を深めることで、音楽業界の仕組みを学ぶ。				
到達目標	<p>前期では音楽業界の中心となるプロダクション、レコード会社、音楽出版社の役割とコンサート業界、レコーディング業界 の仕事内容について学びます。</p> <p>後期では音楽ビジネスに関わる権利、著作権、印税の仕組み、著作物について学びます。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	音楽業界の仕組み① 音楽業界のお仕事～プロダクションの働きについて理解する 音楽業界の仕組み② レコード会社の働きについて理解する 音楽業界の仕組み③ 音楽出版社とJASRACの働きについて理解する
【前期】 4～7回目	イベント・コンサート業界の仕組み イベント・コンサートに関わる各セクションの仕事について理解する コンサート制作の仕事 イベントターやコンサート制作会社の働きについて理解する コンサートスタッフの仕事 舞台監督や各業種の仕事内容について理解を深める コンサート関連の技術系の仕事の流れ PA・照明・ローディーの仕事の流れについて理解を深める
【前期】 8～10回目	業界用語と舞台用語 業界や現場で使われる用語を理解する 音源制作の仕事① CDが出来るまでの流れと楽曲発注について理解する 音源制作の仕事② プリプロ～レコーディングの流れを理解する
【前期】 11～13回目	音源制作の仕事③ マスタリングについて理解を深める 音源制作の仕事④ ジャケット制作について理解する 音楽ビジネスの現状 変化する音楽産業とミュージシャンの収入について
【前期】 14～17回目	ここまでのまとめとテスト 前期テスト テストの解説
【後期】 18～20回目	音楽ビジネスに関わる権利 ① ミュージシャンに関わる権利について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ② 著作権について理解する 音楽ビジネスに関わる権利 ③ 実演家とレコード製作者の両方に認められている権利について理解する
【後期】 21～24回目	音楽ビジネスに関わる権利 ④ 原盤について理解する 著作権管理事業の現状 著作権管理事業について理解する JASRAC の問題点 JASRAC の功罪などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み① CD販売の場合の著作権使用料による印税収入などについて理解する
【後期】 25～27回目	著作者に関わる印税の仕組み ② 動画投稿(共有)における著作権使用料などについて理解する 著作者に関わる印税の仕組み ③ 放送使用における著作権使用料について理解する 著作隣接権に関わる印税の仕組み アーティスト印税の計算などについて理解する
【後期】 28～30回目	著作権にまつわる問題点 インターネットの普及でばら撒かれる海賊版の氾濫などについて理解する 著作物を利用する方法① ビジネス契約と著作権～「所有権」と「著作権」について理解する 著作物を利用する方法② 著作物の自由利用について理解する
【後期】 31～34回目	ここまでのまとめとテスト 後期テスト テストの解説
評価方法	前期試験、後期試験ともに筆記試験を実施し、S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価を行う。
学生へのメッセージ	仕事内容の伝わりにくい業界ですので、これをキッカケに興味を広げ、自身でも積極的に調べるようにしていきましょう。
備考	HRも兼ねるため、日常の連絡業務や学校行事のプリント配布、アンケート調査、就職ゼミなどが実施される週もある。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	一般教養 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	一般教養 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目			該当 <input type="checkbox"/>	非該当 <input checked="" type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴					
授業概要					
<p>①企業に就職するために必要な知識とスキルを身に付けるための授業を行う。 ②人として信頼されるための第一印象の重要性、ビジネスマナー(マナーの5原則・敬語・電話対応など)、履歴書の作成方法、面接対策。 ③卒業後の自分を見据えるためのキャリアビジョンを設定し、実現に向けて何が必要かを考えていく。</p>					
到達目標					
<p>・社会人になるための心構え、教養、作法を身に付け将来の自分、自分の目標を明確にし、その目標に向かってのプランニングをできるようになる。 ・身だしなみ、挨拶の仕方や正しい敬語の使い方など社会人として必要な一般常識、並びに名刺交換の作法、電話対応、ビジネスメールなどビジネスマナーの応用知識を身につける。 ・就職活動における履歴書及びエントリーシートの完成度を高めるとともに面接対策なども実施する。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の第一印象は？、信頼印象力 ・キャリアビジョン(目標設定)
【前期】 4～7回目	<ul style="list-style-type: none"> ・マナーとは？、マナーの5原則 ・就活の身だしなみ
【前期】 8～10回目	<ul style="list-style-type: none"> ・敬語とは？(尊敬語、丁寧語、謙譲語、クッション言葉、間違えやすい敬語) ・敬語を使った自己紹介文作成
【前期】 11～13回目	<ul style="list-style-type: none"> ・電話対応。(かけ方、受け方、取り次ぎ方) ・就活についての基本事項、企業研究
【前期】 14～17回目	<ul style="list-style-type: none"> ■前期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自分の第一印象・キャリアビジョンについての自分の考えをまとめたものを記述する。
【後期】 18～20回目	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアビジョン(自己分析) ・自己PR、志望動機作成
【後期】 21～24回目	<ul style="list-style-type: none"> ・履歴書作成 ・エントリーシート作成
【後期】 25～27回目	<ul style="list-style-type: none"> ・一般常識、SPI対策
【後期】 28～30回目	<ul style="list-style-type: none"> ・面接対策
【後期】 31～34回目	<ul style="list-style-type: none"> ■後期試験:試験時間内に穴埋め問題を行い、授業内容の理解度を試験の得点で判断する。 自己PRをまとめたものを記述する。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自分の第一印象について知ることで、自分の長所をどのように活かし、短所をどのように変えていけばよいかについて考え、自己成長につなげて行く。更に、キャリアビジョンについて考えることで自分の目標設定ができ、これからの学内での2年間をどのように過ごすのか、どういう姿勢で授業に取り組むのかを考えることができる。
備考	特になし。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音楽史 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	音楽史 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数 4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	自らのバンド経験を生かし、福岡を中心に楽器スタッフやイベントスタッフとして活躍。近年ではNUMBER SHOT・中洲ジャズ・Sunset Liveなどにもスタッフとして参加。 上記の経験を活かしポピュラーミュージックの歴史についての講義を行う。				
授業概要					
<p>①ジャズやブルースの時代まで遡り、1950年代のエルヴィス・プレスリーや1960年代のビートルズなど、その時代を象徴するアーティストを時代背景と並行して学ぶ。</p> <p>②現代のポピュラーミュージックに至るまでの流行や低迷の歴史、並びに変遷を学び一つの事柄(ジャンルや、アーティスト、楽曲等)に対して深く掘り下げ、他との関連性を調べる習慣を身に付け、「知る」という行為、「探究心」を育てる。</p>					
到達目標					
<p>・音楽史を学ぶ事により、数々のジャンルや時代背景についての理解を深め、それぞれの現場において、演者が目指すであろう音楽像を、様々な音楽ジャンルの中より察知し、具体的な提案や、技術提供を通して、音作りや演出等に活かせるよう感性を磨き、担当するアーティストの活動がより良いものとなるよう常に研究・模索する人物であること。</p> <p>・音楽業界人の一般教養として、あるいは、音楽についての会話を通じて、円滑なコミュニケーションを図る一つのツールとなる様、その知識を活用できる人物になること。</p>					

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	ジャズ、ブルースの誕生と時代背景の講義。
【前期】 5～7回目	1950年代のロックンロールの誕生などアメリカにおける流行音楽の講義。
【前期】 8～11回目	1960年代のビートルズの登場などイギリスにおける流行音楽の講義。
【前期】 12～14回目	1970年代以降、多様化するロックのジャンルの概要についての講義。
【前期】 15～18回目	■前期試験:前期の授業範囲内で筆記試験を実施。前期授業の理解度を問う。
【後期】 19～21回目	ハードロックの流行や多数の派生ジャンルの登場などの講義。
【後期】 22～24回目	1980年代のメタルやポップスの流行、MTVの登場などの講義。
【後期】 25～27回目	1990年代の様々な流行音楽の講義。
【後期】 28～30回目	その他、様々なジャンルについての講義。
【後期】 31～37回目	■後期試験:後期の授業範囲内で筆記試験を実施。後期授業の理解度を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音楽業界に関わる人として、音楽の歴史を知るとはとても重要なことのひとつです。 授業を通して学んだことは、音作りや演出などに直接反映され、将来の仕事に繋げることができます。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	楽器知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	舞台知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。				
授業概要					
アコースティックギター、エレクトリックギター、エレクトリックベース、キーボードやドラムなど様々な楽器の歴史、構造、特徴や演奏方法などを学び、幅広い知識を身につける。また、会場の形や広さ、温度や湿度による音の違い、それがレコーディングに与える影響についても分析する。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ポピュラー音楽で使用される楽器を中心に、様々な楽器についてその仕組みや奏法を学び、幅広い知識を身につける。 ・楽器について幅広く学ぶと同時に、それぞれの楽器の音が出る仕組みや奏法を覚える。 ・楽器の分類/それぞれの楽器の主なメーカーと種類/楽器の各部名称と様々なマイクセッティング。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	楽器の種類や分類法、音楽のジャンルによる編成等を学び、一般的によく演奏される楽器を知る。
【前期】 3～5回目	打楽器/ドラムセットの構造・各部名称について学び、標準的なセッティングの方法を知る。
【前期】 6～9回目	弦楽器/ギターの種類や構造・各部名称・奏法について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 10～13回目	弦楽器/ベースの種類や構造・各部名称・奏法について学び、同時にアンプやエフェクターについての知識を深める。
【前期】 14～18回目	前期のまとめ ■前期試験:各楽器の構造や各部名称等について、筆記試験で知識を問う。
【後期】 19～21回目	鍵盤楽器/アナログシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学ぶ。
【後期】 22～24回目	鍵盤楽器/デジタルシンセサイザーの歴史や構造、発音の仕組み等を学び、同時に他のデジタル楽器について知る。
【後期】 25～26回目	管楽器/木管楽器・金管楽器の種類、構造、特徴について学ぶ。
【後期】 27～28回目	民族楽器/打楽器をはじめ、弦楽器や管楽器のルーツについて考察し、知識を深める。
【後期】 29～37回目	年度のまとめ ■後期試験:前期と合わせて楽器の仕組みやマイクセッティング等について実技及び筆記試験で知識を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識/意欲/技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	基本的なことから実践的なことまで、楽器ごとに想定した録音方法を中心に学んでいきます。 また、不明点は担当講師が解説し、理解できるように、機材等を使用して説明します。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	PC知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	PC知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 PAコース/レコーディングコース/照明コース/ステージ総合コース/企画制作コース/マネージャーコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input type="checkbox"/> 非該当 <input checked="" type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴					
授業概要					
①情報リテラシーとして肖像権、パブリシティ権、著作権、知的財産権等についての講義をする。 ②表計算ソフト(EXCEL)を使って、資料を分析する問題(主に国家公務員試験の過去問を使用)を解く。 ③プレゼンテーションソフト(PowerPoint)の使い方を知るために、検定試験の問題を解く。					
到達目標					
①情報化社会におけるリテラシーを学び、ネット社会の光と影を学び、将来にわたり安全にネットを使えるようにする。 ②今後の仕事上、様々な場面で表計算ソフト(EXCEL)を使用することが多くなると予想されるので、その使い方の基本とどのように使えば良いのかの応用を学び、スムーズな社会生活を送れるようにする。 ③自分の意見や考え方を発表するプレゼンテーションをスムーズに出来るように、そのソフトPowerPointの使い方の基本を学び、将来に役立たせる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	著作権法の目的、著作物の要件、著作物の種類、著作者とは(著作者、共同著作)、職務著作、映画の著作者、著作者人格権、保護期間、著作隣接権、著作権侵害されたときの対処法
【前期】 4～7回目	「データ分析NO1(情報分析の仕方)」のテキスト:PART1 例1～例5
【前期】 8～10回目	「データ分析NO1(情報分析の仕方)」のテキスト:問1～問3
【前期】 11～13回目	「データ分析NO1(情報分析の仕方)」のテキスト:問4～問6
【前期】 14～17回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト:PART2 問7～問10
【後期】 18～20回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト: 問11～問14
【後期】 21～24回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト: 問15～問18
【後期】 25～27回目	「データ分析NO3(情報分析の仕方)」のテキスト: 問19～問22
【後期】 28～30回目	「データ分析NO2(情報分析の仕方)」のテキスト: 問23～問26
【後期】 31～34回目	プレゼンテーションソフトの使い方:検定試験の問題を解く
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点/意欲/理解」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	上記講義内容を基本としますが、IT社会の基本としての講義(光や色の三原色、音の基本、動画の基本など)を入れ込み広い知見を得られる授業にしていきます。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	音響知識 I		授業形態 / 必選	講義	必修
	学則別表上表記	コンサートスタッフ知識 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。				
授業概要					
レコーディングに使用される様々な機器の役割から構造、音響知識、電気知識などレコーディングに必要な基礎から応用まで幅広い知識全般を学ぶ。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> 音響に関する基本用語をはじめ、機器の構造、音の性質や特性などの知識を習得する。 スピーカー、マイクやミキシングコンソールなどの各機器の役割や正しい取り扱い方法を身につけ、実際の現場の状況に適した対応ができる知識を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	レコーディングスタジオの構造、仕組み
【前期】 4～7回目	マイクの仕組みについて、ダイナミックマイクについて。
【前期】 8～10回目	コンデンサーマイクについて、ミキシングコンソールについて。
【前期】 11～13回目	モニタースピーカーについて リバーブ、ディレイなど各種エフェクターについて。
【前期】 14～17回目	■前期試験：前期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
【後期】 18～20回目	電気基礎：電圧・電流・抵抗・電力について。
【後期】 21～24回目	電気基礎：並列・直列など、回路と分流について、ケーブルの種類、特性に関して。
【後期】 25～27回目	デシベルと音圧について。電圧比およびdb計算について。
【後期】 28～30回目	アナログ録音、デジタル録音の時代の移り変わり、それぞれの特徴について
【後期】 31～34回目	■後期試験：後期授業内容より抜粋して筆記試験を行う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	音響機材全般に関して、専門的知識を知識を習得します。機材の特徴を知ることによって、様々なシチュエーションでそのシチュエーションに適した機材のセッティング、対応ができるようになります。
備考	授業毎に講師作成の資料を配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	サウンドアナライズ I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	サウンドアナライズ I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。				
授業概要					
<p>①レコーディング/ミキシングの実習を通して作品に使用されている音の仕組みの基本的な部分を理解する。 ②録音作業を通じてレコーディングの全体像を理解し、作品を俯瞰で見る能力を身に着ける。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・作品に使用される音の役割について正しく理解する。 ・録音物から作品に使用される音の構成を読み取れるようになる。 ・レコーディング及びミキシングの作業に際し、事前に完成品のイメージをつくることができるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	楽曲の構成(メロディ・リズム・ハーモニー)、楽曲ジャンルとそれに沿ったレコーディング方法について学ぶ。
【前期】 4～7回目	すでに完成されているプロジェクトを用い、楽曲への理解を深め、どのようなアプローチで楽曲を構成し制作がされているかを学ぶ。
【前期】 8～10回目	サンプルアーティストのレコーディングを行い、マルチトラックから実際に録音された音の特性・特徴を理解していく。
【前期】 11～13回目	収録した楽曲データのミキシングを通して音の特性・特徴を理解していく。 自分のイメージを形にするために必要なソフトウェアを正しく選択できるようになる。
【前期】 14～17回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	サンプルアーティストレコーディング。 ディレクションによる音の変化を体験する。
【後期】 21～24回目	ミキシング。 ディレクションによる音の変化を体験する。
【後期】 25～27回目	サンプルアーティストレコーディング。 自身で完成形をイメージし、それに沿った収録環境を整える。
【後期】 28～30回目	ミキシング。 制作物の発表及び講評。
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	自身が扱う作品の実態を紐解いて理解することはプロになるために必須の能力です。 楽曲理解のための知識・技能の習得と並行して、独自の感性を育てていきましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	DAW&Theory I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	DAW&Theory I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	音楽学校卒業後、2015年よりフリーで作詞作曲をすると同時に、DAW講師として活動。アイドルグループへの楽曲提供及び編曲を多数行うとともに、レコーディングディレクターとしても活躍。現在に至る。上記の経験を活かし楽曲制作並びに音楽理論の実技指導を行う。				
授業概要	<p>①オリジナル楽曲の制作を行い、打ち込みなどの制作過程を学び、音楽理論についての知識を習得する。</p> <p>②各種楽器(ギター、ベース、ドラム等)の音の性質の特徴などについて知識を身につけ、既存の曲のコードやリズム、メロディや音作りを分析する。</p>				
到達目標	<p>・Mac PC及びDAWソフトを使用し、楽曲制作並びに編集作業の基礎技術を学ぶ。また、オーディオインターフェイスやその他周辺機器を利用して、DAWにおける高度なオペレート技術を習得する。</p> <p>・楽曲制作や曲の分析を通して、レコーディングに必要な音楽のセンスを身につけ、様々な場面で臨機応変に対応できることを到達目標として目指す。</p>				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	各生徒の卒業後の目標を聞く。基本的なDAWの操作方法に慣れる為、簡単なドラムの打ち込み。
【前期】 4～7回目	楽器が弾けなくても曲が作れる方法。loopやコードトリガーやアルペジエーターを使ってみる。
【前期】 8～10回目	loop等を使って短い曲を作ってみる。それぞれの曲を聞いてみてアドバイス。
【前期】 11～13回目	音楽理論。コードの出来かた。コード進行の作り方。
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期学んだ内容の筆記試験を実施、音楽理論の理解度を問う。
【後期】 18～20回目	自分でコード進行を作ったの楽曲作成。
【後期】 21～24回目	作った楽曲のクオリティーを上げてみよう。アレンジや音作りについて。
【後期】 25～27回目	ミックスやマスタリングについて。楽曲分析。
【後期】 28～30回目	一年の総復習。
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験を実施。logicを使用してDAWの操作の正確性、知識を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「平常点 /意欲 /技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	Mac PC及びDAWソフトを使用し、楽曲制作並びに編集作業を学びます。また、オーディオインターフェイスやその他周辺機器を利用して、DAWにおけるオペレート技術を習得し、DAWソフトを自在に操作できるようになります。
備考	講師作成のプリント資料を授業毎に配布。

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ProTools基礎 I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	ProTools基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。				
授業概要					
<p>①Macの基礎知識および、多くのレコーディングスタジオで導入されているPro Toolsについて学ぶ。 ②Pro Toolsとミキシングコンソールの関係性にふれ、実用性について学ぶ。</p>					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> Macへの知識、Pro Toolsの操作技術及び理解力を高め、基礎知識を身につける。 Pro Toolsの操作に関する基礎知識を身につける事によって、Pro Toolsの操作速度の向上及び正確性を目指す。 Pro Toolsの応用技術を学ぶ事で、現場に出た後も技術を磨いていける自己研鑽力を身につける。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Macの基礎知識、操作方法を学ぶ。 Pro Toolsの概要説明。 Pro Tools新規セッションの作成方法。
【前期】 4～7回目	トラックタイプの説明。 ツールの機能について学ぶ。
【前期】 8～10回目	編集ウィンドウおよびミックスウィンドウでの基本操作。 Pro Tools録音における基本操作。 カウンター、メモリーロケートについて学ぶ。
【前期】 11～13回目	テンポ検出について学ぶ。 Pro Toolsでの編集操作について学ぶ。
【前期】 14～17回目	■前期試験:前期授業内容より抜粋して筆記・実技試験を行い、前期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
【後期】 18～20回目	レコーディングにおけるPro Tools内のセッティングについて学ぶ。 内部Busの活用方法について学ぶ。 Pro ToolsのI/O設定、ルーティングについて学ぶ。
【後期】 21～24回目	Pro Toolsのショートカットキーについて基本説明。 ショートカットキーを活用して、操作の速度向上を目指す。
【後期】 25～27回目	ショートカットキーを活用した操作の精度向上を目指す。 テイク選択や、ノイズ除去等の編集について学ぶ。
【後期】 28～30回目	ミキシング実習
【後期】 31～34回目	■後期試験:後期授業内容より抜粋して筆記・実技試験を行い、後期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	現場での空気感を学び、就職した後活かせる知識及び技術を身につけます。 また、今後も変化していくであろうレコーディングシーンにも対応出来る柔軟性も育てていきましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	ProTools応用 I		授業形態 / 必選	実習	選択
	学則別表上表記	ProTools応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 <input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当				
担当講師 実務経歴	福岡のレコーディングスタジオにおいて約10年エンジニアとして在籍の後、現在はフリーランスとしてスタジオレコーディングやライブレコーディングを担当。また、PAオペレート業務、楽器や音響機器のメンテナンスなども行う。				
授業概要					
Pro Toolsを使った録音(楽器・声)を行い、実践的な技術及び、応用技術を習得する。 また、ミックスダウンの方法を学び、作品の収録・納品までできる知識を身に着ける。					
到達目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・実践を通してPro Toolsの操作技術及び理解力をさらに高める。 ・作品の収録・納品までを自身でできるようになる。 					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	Mac及びPro Toolsの基礎知識について振り返り。
【前期】 4～7回目	ミックスダウンの作業について理解を深める。 バウンスについて学ぶ。 オーディオデータやビデオデータ等のインポート、エクスポートについて学ぶ。
【前期】 8～10回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習(課題曲①)
【前期】 11～13回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習(課題曲②)
【前期】 14～17回目	■前期試験:実技試験を行い、前期授業で学んだ知識及び技術の習得を問う。
【後期】 18～20回目	納品形態に合わせたデータ作成について学ぶ。
【後期】 21～24回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習(映像①)
【後期】 25～27回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習(映像②)
【後期】 28～30回目	Pro Toolsを使用したミキシング実習(課題曲③)
【後期】 31～34回目	■後期試験:実技試験を行い、後期授業で学んだ知識及び技術の習得、習熟具合を問う。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	ProTools基礎 I で学んだ内容を基に、実践形式で理解を深めていきます。 現場で即戦力になれる力をつけましょう。
備考	特になし

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習基礎 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	レコーディング基礎 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし仕込みからバラシ、スタジオ実習に関する実習を行う。				
授業概要	<p>①レコーディングスタジオ内の全ての機材や備品の名称、役割を理解し適切に使用できるように学習を進める。</p> <p>②実務に近い形で授業を行い、録音作業を通じてレコーディングの全体像を理解し、作品を完成させる技術を習得する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> レコーディングスタジオ内にある機材や備品の名称、役割を理解し適切に使用出来る。 同じ役割であれば初見の機材でも使用出来る応用力を身に付ける。 レコーディングからミックスまでの流れを学び、完成品のイメージを持った計画性のあるレコーディングを進められる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	スタジオの電源の入れ方から、ケーブルの正しい巻き方(8の字巻き)など基本的な作業を理解する。 レコーディングスタジオ内の主要な機材の役割とレコーディング作業全体の流れを理解する。
【前期】 4～7回目	マイクやコンソール、スピーカーなどスタジオに常設されている機器の役割を理解する。 マイクのマイクスタンドへの取り付け方やケーブルの接続方法、CueBoxなど録音前の準備について理解する。
【前期】 8～10回目	機器間接続の中心となるパッチベイを理解し信号の流れ(ルーティング)を理解する。 レコーディングの内容に合わせて準備から回線チェック、片付けまで一連の作業の流れを理解する。
【前期】 11～13回目	マイク、ラインレベルの信号の取り扱いや、Pro Toolsへの録音時の注意点など。 録音のセッティングにおいて、必要な機材と設置方法を理解する。
【前期】 14～17回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	外部エフェクトやProToolsの内部エフェクトなど使用・接続方法を理解する。
【後期】 21～24回目	機器や流れの理解度を再確認する。 直接聴く音と機材によって録音された音の違いを知る。
【後期】 25～27回目	楽器やアーティストの構成などにより変わってくる事前準備や楽器に対する接続方法の違いを理解する。 様々な楽器についての理解を深める。
【後期】 28～30回目	アーティストを交えたレコーディング実習。 実習での反省点や改善点を確認する。
【後期】 31～34回目	■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。 学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	プロのエンジニアとして活動するために必要な知識の内、基礎的な部分を実際のスタジオワークを通して学んでいきます。 高度なレコーディング技術獲得の根幹となる授業ですので、不明点はわかるまでしっかり説明します。
備考	

専門学校ESPエンタテインメント福岡

授業科目名	スタジオ実習応用 I		授業形態 / 必選	演習	選択
	学則別表上表記	レコーディング応用 I	年次	1年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	34回(68単位時間)	年間単位数	4単位
科目設置学科コース	■音楽芸能スタッフ科 レコーディングコース				
授業科目要件	実務経験のある教員等による授業科目 該当 ■ 非該当 □				
担当講師 実務経歴	10代の頃から自身のユニットを結成して活動。ライブと並行してDTMでの制作を始める。その後音楽活動を続けながらもサウンドエンジニアリングにも傾倒。徐々に自身の作品以外のRec/Mixも手掛けるようになり、近年ではメジャーインディー問わず多数のアーティストの作品にエンジニアとして携わりスタジオのメインエンジニアに就任。上記の経験を活かし仕込みからバラシ、スタジオ実習に関する実習を行う。				
授業概要	<p>①スタジオ実習基礎 I での学習と並行し、より実践的な作業を通して応用力を身に着ける。</p> <p>②実務に近い形で授業を行い、録音作業を通じてレコーディングの全体像を理解し、作品を完成させる技術を習得する。</p>				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・実践的な練習をすることで、時間のロスのない円滑なレコーディング作業を進められるようになる。 ・機材トラブルの対処や、行き詰った際の解決策を考えられる思考力を身に着ける。 ・レコーディングからミックスまでの流れを学び、完成品のイメージを持った計画的なレコーディングを進められる。 				

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	実践的なレコーディング実習(バンドセッティング、ヴォーカルセッティング)
【前期】 4～7回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【前期】 8～10回目	実践的なレコーディング実習(ライブレコーディング)
【前期】 11～13回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【前期】 14～17回目	■前期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
【後期】 18～20回目	実践的なレコーディング実習(アフレコ・ナレーション)
【後期】 21～24回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【後期】 25～27回目	実践的なレコーディング実習(管楽器・弦楽器アンサンブル)
【後期】 28～30回目	収録したデータを基にMIX作業を行い、個別にフィードバックする。よくある収録時のトラブルシューティングを学ぶ。原因の特定と解決策を考える。
【後期】 31～34回目	■後期試験:筆記試験及び実技試験の実施。
評価方法	S(90点以上)/A(80点以上)/B(70点以上)/C(60点以上)/D(60点未満)/E(未受講)の6段階評価。学期末に実施する試験により「知識 / 意欲 / 技術力」の3項目の到達度を総合的に評価する。
学生へのメッセージ	プロのエンジニアとして活動するために必要な知識を基に、ケーススタディを通して応用力を身に着けます。高度なレコーディング技術獲得の根幹となる授業ですので、不明点はわかるまでしっかり説明します。
備考	